

環境影響評価集計表 環境影響に関する授業一覧

分類: (1) 自然環境、社会環境、文化環境、医学・保健環境等の理解促進に関わる授業

(集計対象:平成26年度 調査実施年度:平成27年度)

(2) 環境側面(環境に影響を与える要因)を個別具体的に対象とする授業

部局	No.	授業題目	分類	学年	開講学科・専攻	担当者	授業の概要
人文学部	1	倫理学Ⅳ	(1)	2、3、4	人文学科	三谷尚澄	「人類の生存に関わる脅威」としてのAIについて、その現状と将来的な危険性について総合的に検討する。
	2	ゲーミングで知るマクロ社会心理学	(1)	1	共通教育	岡本卓也	この講義では、集団間の紛争と協調の過程を実体験してもらうプログラムを組んでいる。その1つとして環境問題の社会的ジレンマ構造に言及している。
	3	フランス言語文化概論	(1)	1～4年	人文学科	吉田正明	中世から17世紀までのフランス言語文化事情を概観した。フランス文学に描かれた当時の社会、歴史、文化、風俗、芸術等の諸相を考察。
	4	対人行動論Ⅲ	(1)	2～4	人文学科	清水	心理学を発達の視点から深く理解することによって、心理環境への理解促進に努めた。
	5	社会心理学基幹演習Ⅵ	(1)	2～4	人文学科	清水	基礎的な論文輪読を通して、当該学生の心理環境への理解促進に努めた。
	6	社会心理学発展演習Ⅵ	(1)	2～4	人文学科	清水	発展的な論文輪読を通して、当該学生の心理環境への理解促進に努めた。
	7	中国哲学入門	(1)	1	全	早坂俊廣	一年生向けの共通教育として、中国古代哲学(『論語』『老子』『孫子』等)について講義した。
	8	東洋思想概論Ⅱ	(1)	1～4	人文学部人文学科	早坂俊廣	東洋思想の精華として、朱子学・陽明学を取り上げ、その「修己治人」論を中心に解説した。
	9	東洋思想特論Ⅲ	(1)	2～4	人文学部人文学科	早坂俊廣	「性命」という概念の展開を通して、中国思想史における「運命」論について講義を行った。
	10	哲学・思想論特論Ⅰ	(1)	2～4	人文学部人文学科	早坂俊廣	「中国思想とキリスト教」と題して、中国にキリスト教が伝来して、どのような衝突と対話があったのかについて解説した。

人文学部	11	日本文学概論2	(1)	2~4	人文学科	松本和也	日本近代文学(者)の風土・書物などマテリアルな側面から考察を展開した講義。
	12	日本語学概論	(1)	1~4	人文学部	白井 純	日本語学についての概論、言語環境が個人の言語観の形成にあたる影響について説明した。
	13	日本語学演習	(1)	2~4	人文学部	白井 純	中世日本語(キリシタン文献)についての演習、時代特有の社会環境が当時の日本語に与える影響について説明した。
	14	地域社会学Ⅱ	(2)	2~4	人文学部人文学科	茅野恒秀	「環境問題の地域社会学」を主題とした。地域に生起する環境問題が、現代社会のマクロな構造変化と、時間的・空間的にどのように関連しあっているのかを理解できるよう実施した。
	15	環境政策の社会学	(2)	1~4	共通教育	茅野恒秀	日本の環境問題の経験と、その解決のためにどのような主体が政策形成に関わってきたか(関わろうとしてきたか)を検討した。
	16	現代社会学基幹演習Ⅲ	(1)	2~4	人文学部人文学科	茅野恒秀	東日本大震災による地震、津波、原発事故による被害からの復旧・復興において注目が集まっている地域社会の総体としての回復力(Resilience、レジリエンス)を主題とする文献を講読した。
	17	社会調査実習Ⅰ	(2)	2~4	人文学部人文学科	茅野恒秀	群馬県みなかみ町新治地区において、森林資源管理の「記憶」に関する社会調査を実施した。
	18	社会調査演習Ⅰ	(2)	2~4	人文学部人文学科	茅野恒秀	群馬県みなかみ町新治地区において、森林資源管理の「記憶」に関する社会調査を実施するための準備演習を実施した。
	19	映画史入門	(1)	全	共通教育	飯岡詩朗	映画／映像表現のスタイルの変遷をたどりながら、芸術・文化・歴史環境の理解の促進を図る。
	20	映像記録制作ゼミ	(1)	全	共通教育	飯岡詩朗 長谷川理	映像による周辺環境の記録の実践をとおして、社会・文化環境の理解の促進を図る。
	21	英米文学概論Ⅰ,Ⅱ	(1)	全	人文学部	飯岡詩朗	イギリス、アメリカの芸術・文化・社会の歴史を概観することとおして、芸術・文化・社会・歴史環境の理解の促進を図る。
	22	英米映像文化史Ⅰ,Ⅱ	(1)	2~4	人文学部	飯岡詩朗	英語圏の映画の歴史を概観することとおして、芸術・文化・社会・歴史環境の理解の促進を図る。

人文学部	23	英米映像文化発展演習III, IV	(1)	2~4	人文学部	飯岡詩朗	英語圏の映画に関する英語文献の輪読ディスカッションをととして、芸術・文化・歴史環境の理解の促進を図る。
	24	フィールド実践基幹演習	(1)	2~4	人文学部	飯岡詩朗 北村明子 護山真也	自分たちの身の回りの環境／フィールドを映像を通して表現し、映像を用いた他者とのコミュニケーションの実践を通して、社会・文化環境の理解の促進を図る。
	25	芸術ワークショップ基幹演習V	(1)	2~4	芸術コミュニケーション分野	金井直	芸術と地域環境の互恵的な関係構築をめざして、まつもとクラフトフェア等で活動した。
	26	芸術ワークショップ基幹演習V	(1)	2~4	芸術コミュニケーション分野	金井直	芸術と学内環境の互恵的な関係構築をめざして、信州大学自然科学館、附属図書館等で展覧会やワークショップを実践した。
	27	芸術文化特論VIII	(1)	2~4	芸術コミュニケーション分野	金井直	自然環境と歴史環境の高度な調和を実現してる都市ヴェネツィアについて、その伝統や文化を軸に解説した。
	28	フランス言語文化特論V	(1)	2~4年	人文学科	鎌田隆行	バルザック『人間喜劇』の主要作品を考察し、主題や文体の独自性、作中に見られるイデオロギー、メディアとの関わりなどを検討した。
	29	フランス言語文化基幹演習VI	(1)	2~4年	人文学科	鎌田隆行	フランスの主な地方を紹介した教科書を読解し、各地の歴史、風土、産業、名所旧跡、ゆかりのある作家・芸術家、特産品について考察した。
	30	フランス言語文化概論II	(1)	1~4年	人文学科	鎌田隆行	18世紀~20世紀のフランス文学の中から代表的な小説群を取り上げ、作品の魅力を読み解き、また近代小説の形式の発展と変容を跡づけた。
	31	フランス言語文化基幹演習I	(1)	2~4年	人文学科	鎌田隆行	最新のフランス社会と文化の動向を取り上げた教科書を読解し、現代のフランスの様相やフランスが直面する問題点を考察した。
	32	フランス文学発展講義IV	(1)	2~4年	人文学科	鎌田隆行	ウージェーヌ・シュエ『パリの秘密』を講読し、当時のパリの社会状況を参照しながら小説のエスティックを分析し、大衆小説の動向について考察した。
33	フランス文学発展演習VI	(1)	2~4年	人文学科	鎌田隆行	ジャン・エシュノーブ『ジェローム・ランドン』を講読し、フランス20世紀文学における編集者の役割を考察した。	

経済学部	1	経済発展論	(1)	2～4年生	経済学部	金早雪	1コマ、経済発展・工業化に伴う公害・環境問題とその対策についてを取り上げた
	2	自然活動論ゼミ	(2)	全	全	古屋顯一	「自然と人間の共存」をテーマに、自然の中で人間の生活や遊びについて検討する。フィールドワークを伴う。
	3	自然と人間を考えるゼミ	(2)	全	全	古屋顯一	「自然の中で人間のあり方」、「自然とは」ということをテーマに「自然と人間の営みについて」検討する。フィールドワークを伴う
	4	ミクロ経済学 I	(1)	2～4	経済学部	西村 直子	市場が機能不全あるいは市場が存在しない社会活動に関する政策分析。その一環で、環境をはじめとする公共財および外部性を伴う財に関わる講義内容あり。
	5	公共経済学	(1)	2～4	経済学部	西村 直子	市場が機能不全あるいは市場が存在しない社会活動に関する政策分析。その一環で、環境をはじめとする公共財および外部性を伴う財に関わる講義内容あり。
	6	会社法	法律環境	2年生から4年生	前期	長瀬	企業のリーガルコンプライアンスに関する説明のなかで、企業が環境関連諸法を遵守することが求められること、また、この遵守に反して会社が損害を被った場合は、経営者の対会社責任が、第三者に損害を与えた場合には、当該企業の責任とともに、経営者にも対第三者責任が生ずる等を教示した。
	7	企業活動と法	法律環境	経営大学院	前々期	長瀬	企業のリーガルコンプライアンスに関する説明のなかで、企業が環境関連諸法を遵守することが求められること、また、この遵守に反して会社が損害を被った場合は、経営者の対会社責任が、第三者に損害を与えた場合には、当該企業の責任とともに、経営者にも対第三者責任が生ずる等を教示した。
	8	国際政治		2, 3, 4	経済学部	美甘信吾	重要なグローバルイシューとして、地球環境問題とその解決へ向けた国際社会の取り組みについて、基礎的な知識を整理し、現状と課題をまとめた講義を行った(2/30)。
	9	情報処理A	(1)	2～4	経済学科、システム法学科	柳町晴美	情報環境に関する基礎的理解のために、情報を扱うスキルを養う。
	10	情報処理B	(1)	2～4	経済学科、システム法学科	柳町晴美	情報環境に関する基礎的理解のために、情報を扱うスキルを養う。
	11	システム解析学 (自然地理)	(2)	2～4	理学部物質循環学科 人文学部	柳町晴美	自然環境に関わる基礎知識を習得し、地球環境に関して理解を深める。
	12	アウトドアの達人	(1)	1～4	全学対象	古屋顯一・古澤栄一	自然環境の中で活動しながら、自然に対してローインパクトな関わり方を学習する。

経済学部	13	スノー・スポーツ	(1)	1~4	全学対象	古澤栄一・杉本光公・古屋顯一ら	自然環境の中で天候や地形の変化などを実感しながら、自然に対して積極的な関わり方を学習する。
	14	国際経済の現状と課題	(1)	2年~4年	経済学科	桃井 謙祐	国際経済の現状やその背景を理解し、課題を考えることのできる題材を講義し、経済環境の理解につながる授業を実施した。
法務曹	1	民法5	(1)	1年次	法曹法務研究科 法曹法務専攻	池田秀敏	公害等の環境問題に関する判例を取り上げ、社会の発展の中でどのような環境問題が生じ、判例理論が展開してきたかを解説している。
理学部	1	分析化学実験	(1)	2	化学科	巽広輔・金継業・樋上照男	実験で出る廃液の環境への影響について説明し、その適切な処理方法について指導した。
	2	分析化学演習Ⅱ	(1)	3	化学科	巽広輔	環境への負荷が高い化合物(ヒ素等)の分析法に関する論文を取り上げ、内容を解説した。
	3	物理化学Ⅱ	(1)	2	理学部化学科	飯山 拓	熱力学に関する基礎的講義の中で、温室効果ガスである二酸化炭素やメタンの性質について触れた。
	4	物理化学Ⅲ	(1)	3	理学部化学科	飯山 拓	物理化学に関する基礎的講義の中で、フロンガスがなぜ利用されたか、オゾン層破壊など、どんな問題を生じたかについて触れた。
	5	物理化学実験	(1)	3	理学部化学科	飯山 拓、浜崎亜富、尾関寿美男	実験試薬、廃液の取り扱いについて学んだ。
	6	計測化学特論	(1)	M1	理工学系研究科	樋上照男	計測化学特論の授業の一環として、信大臨湖実験所の協力得て、諏訪湖の水質調査を行った。調査項目は、溶存酸素、リン酸イオン、珪酸イオン、硝酸イオン、鉄イオンなど。
全学教育機構	1	生物と環境	(1)	1	全学対象	今津道夫	地球環境における生物の存在様式や環境と生物の相互作用、さらに人間活動によって引き起こされる環境問題について解説する。
	2	生態学入門	(1)	1	全学対象	今津道夫	環境と生物の相互作用、個体群の性質、生物群集での個体群間の相互関係、生態系の成り立ちやその仕組みについて解説する。
	3	基礎科学実験	(1)	2	医学部医学科	村上好成	種々の金属イオンの定性分析および定量分析を行った。

全学教育機構	4	化学実験	(1)	1	理学部	石川 厚・大木 寛・飯山拓・濱崎 亜富・竹内 あかり	種々の金属イオンの定性分析を行った。
	5	化学実験	(1)	1	理学部	巽 広輔・樋上 照男・小田 晃規・金 継業・太田 哲・庄子 卓	種々の金属イオンの定性分析を行った。
	6	環境問題を化学者と考えるゼミ	(1)	1	全学部	村上 好成	様々なスケールでの地球環境問題を考え、信大の環境マインドを体得することをねらいとする。テーマとして農薬、海洋汚染、酸性雨等を扱う。
	7	環境～その人文・社会科学のアプローチ(オムニバス)	(1)	1		橋本純一ほか	平成26年12月25日の講義を担当し、ディープエコロジーや森のようちえんを紹介しながら、環境教育についての授業を行った。
	8	生徒指導の理論と実践	(1)	2～4年	人文・理・農・工学・繊維	田村 徳至	学校・教室内における環境整備が児童・生徒の心身の発達や学習能力の向上に影響するかについて教授した。
	9	環境文学のすすめ	(1)	全	全学、 高等教育コンソーシアム信州 遠隔配信	松岡幸司	「環境文学」という文学ジャンルの視点、および作品を紹介し、そこに現れる自然・環境意識を「心でとらえる」学びを通して、「環境マインド」の育成を促進した。
	10	環境～その人文・社会科学のアプローチ	(1)	全	全学部	橋本純一 他(リレー式)	「環境」は、自然科学的な研究と理解に偏りがちであるが、人文・社会科学的な様々な視点から、考察・検討・理解する。それにより、広い視野を持って環境問題を思考するための問題発見・問題解決の能力を養い、併せて専門外の知識の獲得を目指す。
	11	ドイツ環境ゼミ	(1)	1	全学部	松岡幸司	「グローバルな視点で環境問題にアプローチできる姿勢と能力」を身につけるために、3週間のドイツ研修(語学研修+環境視察)を行い、その成果をレポートにまとめ、公開報告会にて発表する。
	12	日本社会と日本人		1	全学留学生	村田	日本の諸状況を自然、社会、文化、産業の側面から紹介する。
	13	生活のなかの天文学	(1)	全	全	三澤 透	天文学を学際的に幅広く扱う講義。環境については、スペースデブリについてわずかに触れた程度。
	14	環境社会学入門	(2)	1	全学教育機構	金沢謙太郎	本講では、環境社会学の理論的思考や実践的研究方法を学んだ上で、環境問題に対する自分なりの考察や批判ができることを目標とします。
	15	熱帯雨林と社会	(2)	1	全学教育機構	金沢謙太郎	熱帯産の食料や資源などを事例に、それらの大量移動に伴う影の問題や現地社会と私たちが抱える現代的課題について考えます。

全学教育機構	16	生態資源論ゼミ	(2)	1	全学教育機構	金沢謙太郎	生態資源とは、人とともに存在し生きてきた資源を指します。県内の生態資源を事例とし、それらの利用の歴史と現状、展望を探ります。
	17	環境マインドを現場で体験するゼミ(熱帯雨林)	(2)	全	全学教育機構	金沢謙太郎	国際協力の分野で実践されているParticipatory Rural Appraisal(PRA)をマレーシア、サラワク州の農山村の現場で演習します。
	18	環境マインドを現場で体験するゼミ	(2)	1	全学教育機構	大塚勉・池田敏彦・金沢謙太郎	水生生物による環境調査、NPOの環境保全活動などの見学実習を通じて、信州の地域環境への理解を深め、社会貢献のあり方を議論します。
	19	環境～その人文・社会科学的アプローチ	(2)	2	全学教育機構	橋本純一ほか(うち1回金沢)	食料調達の方法や居住地の移動などの生活戦略に関して、縄文人と東南アジアの先住民のそれを比較検討し、狩猟採集文化に対する理解を深めます。
	20	ライフサイクルアセスメント入門	(1)	1	全学科	小林充	製品の資源消費量や環境への排出物量および環境影響の評価方法について講述し、演習を通じてその方法を修得する。
	21	環境と生活とのかかわり	(2)	1	全学科	小林充	生活に関わる製品・サービスの環境とのかかわりや環境ラベルについて講述する。
	22	健康科学・理論と実践(地球環境と健康)	(2)	1	全学科	小林充	地球温暖化やオゾン層破壊などによる人間への健康被害を定量的に評価する方法を修得する。
	23	自然環境と文化		全	全	分藤大翼	人類学的な観点から地球環境における人間の活動をとらえ、自然環境と文化の関わりの可能性と課題について考える。
	24	環境～その人文・社会科学的アプローチ		全	全	分藤大翼他	人文・社会科学的な環境マインドを構築するにあたり、スポーツ社会学、文化人類学、ロシア文学、ドイツ文学、脳神経科学、障害者教育、教育哲学、など、様々なパースペクティブから環境を検討・理解する
	25	健康科学・理論と実践	(1)	1	全	速水達也	体力向上および健康の維持増進に対する具体的方法を実践した。具体的には、ウォーキング、ジョギング、種々のエクササイズであった。
26	トレッキング1	(1)	1	全学	折口・廣野	「信州の自然体感」をテーマに、自己の身体を再確認し、運動の重要性の認識と生涯学習への導入を図るとともに、信州の自然環境を体感することにより環境問題についての理解を深める授業。	

医学部	1	健康科学・理論と実践		1	全学の1年生	塚原照臣	地球環境の変化(主に温暖化)と私たちの健康への影響について理解を深め、自らがどう対処していくかを習得することを目的に授業を行った。
	2	衛生学公衆衛生学演習・実習 I 環境医学概論		3	医学部医学科	野見山哲生	環境因子とヒトの健康について、ヒトに影響を与える外部環境について授業を行った。
	3	衛生学公衆衛生学演習・実習 I 環境医学の実際1,2		3	医学部医学科	塚原照臣	環境要因と健康影響について授業を行った。
	4	ユニット講義(臨床決断・社会医学) 環境医学のトピック		6	医学部医学科	大前和幸	環境保健におけるトピックスを通じて、健康と環境の関係について概略について授業を行った。
	5	ユニット講義(臨床決断・社会医学) 子供の健康と環境に関する全国調査		6	医学部医学科	野見山哲生	エコチル調査の概要を理解し、環境要因と子供の成長・発達について授業を行った。
	6	社会・環境人間健康学概論		1	大学院修士課程	野見山哲生他	環境因子とヒトの健康について、ヒトに影響を与える外部環境について授業を行った。
部内局部	1	健康科学・理論と実践	(1)	1	全員	川 茂幸 ほか	大学教育における基礎的な能力として、大学生生活を健全に送り、かつ生涯にわたって健康を維持増進するための健康科学の知識と実践方法の習得を目的とする。